

エスロハイパーJW被覆付管による円弧配管

水道配水用ポリエチレン管「エスロハイパー」を使用する中で、橋梁添架などの露出配管部分は、管路の一体化という観点からも、ひとつの重要なポイントです。

今回は、中でも設計・施工が難しい円弧状の橋にエスロハイパーJW被覆付管100mmを布設した事例を紹介します。



施工現場となった橋梁部分。道なりに緩やかにカーブしています。曲部の半径は、約18mです。



カーブに対応するため、被覆付乱尺直管(3m)と11 1/4°曲管を使用しました。



施工時には、実際に部材を用いて位置あわせを行い、設計との誤差を修正していきます。ハイパー被覆付管は軽量なので、人力でも持ち運び出来ます。



乱尺直管の片端は、外装管及び発泡層が取り外し出来る構造になっています。現場で簡単に切管、長さ調整が可能のため、設計変更が容易です。



管の接合にはEFソケットを使用。融着により完全に一体化しますので、スラスト対策は必要ありません。融着後、カバー時に邪魔になる電極を切断します。



接合部にカバーを取り付けて、施工完了。約2.5mの布設を1日で施工することが出来ました。

これまで設計・施工が難しかった橋梁添架部も、被覆付管なら、簡単、確実に施工できます。エスロハイパーJW被覆付管に新しく呼び径50,200が加わりました。さらに便利になったエスロハイパーJW被覆付管を是非、ご検討ください。